

高校生ワークショップ「MIYAZU高校生クロスセッション」

参考資料 1

日 時 令和7年7月29日(火) 15:00～17:12

場 所 前尾記念クロスワークセンターMIYAZU 2階

参加者 宮津天橋高校宮津学舎の生徒15人

(内訳) 1年生2人、2年生10人、3年生3人(男子12人・女子3人)

ファシリテーター 前尾記念クロスワークセンターMIYAZU 三原さん

アシスタント 前尾記念クロスワークセンターMIYAZU 今村さん

- 内 容
- ①アイスブレイク・ワークショップの趣旨説明
 - ②宮津市の現況と将来の見通しについて市から説明
 - ③ワーク①「今の宮津をどう思う？」
 - ④ワーク②「未来の宮津のまちを作ろう！」
 - ⑤発表



【発表内容】

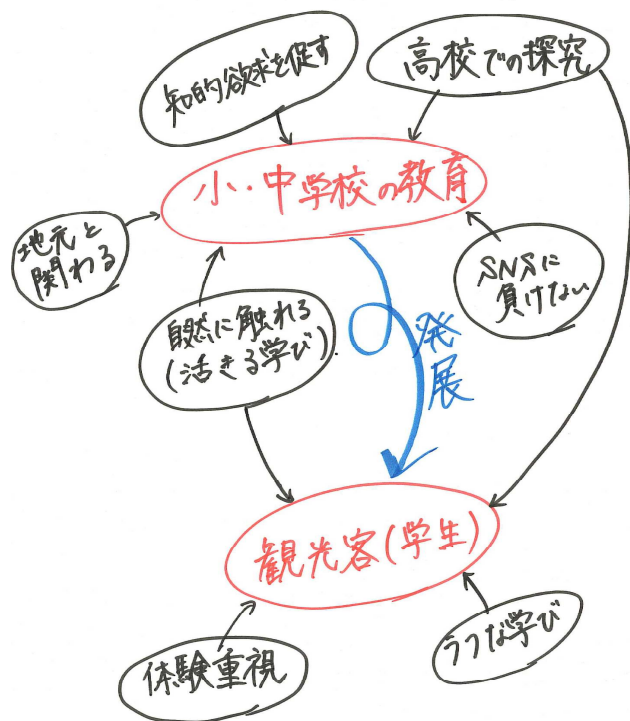
①「リアリティのある学びを全ての学生にする」まち

- ・宮津天橋高校の探究活動のような、机の上だけで終わらない学びを子ども達にもしていくべき
- ・子ども達に学びの必要性が伝わっていない中で、SNSに触れる前に、知的好奇心の強い小1か小2から、自然に触れる機会を増やしていく。
- ・身近なものに触れる機会の創出をしていく。
- ・また、観光客を学生と考えて、実践的な教育に触れる機会を作ることで、観光にもつなげていく。
- ・堅苦しいものだけでなく、人生に活かせる教育を進めてほしい。

コンセプト

私たちが作る未来の宮津は

「リアリティのある学びをすべての学生にする」まちです！



学びをち感で楽しむ

→ 義務教育でやったことを肌で感じる

- ・小・中学校から地域と関わる
- ・机上の空論で終わらせない
(田舎のアイデンティティ)
- ・小・中学校でも高校の探究に繋がる探究

堅苦しくない「学び」

【発表内容】

②「宮津の魅力を発信する食育の」まち

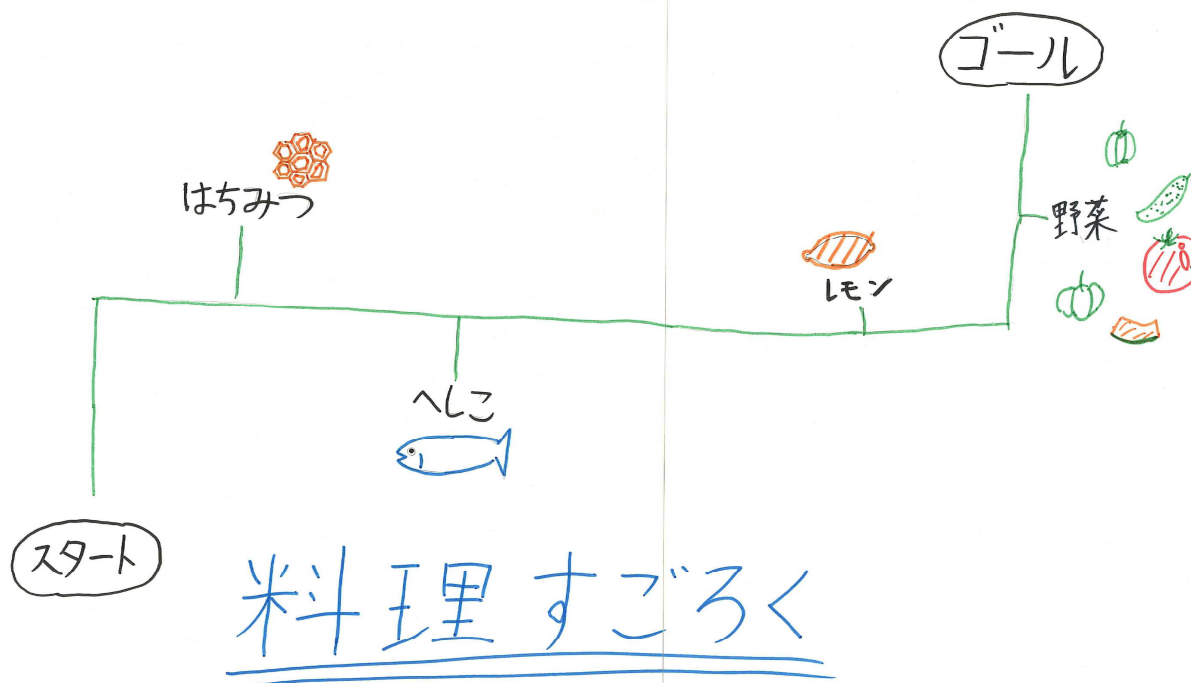
- ・料理を使った双六として、ツアーを実施する。
- ・ツアーは、地域の農家等に行って、収穫体験をしたり、話を聞いたりする。
- ・食材の魅力発信で食育
- ・宮津といえば自然。自然が豊富だと、食材も豊かだと思う。
- ・中々体験できないことをして、ゴールで料理を作る。自分達で採って、自分達で料理する。
- ・自然の魅力を知ってもらって関係人口の増加、ツアーによって食材の販売につなげていく。

コンセプト

私たちが作る未来の宮津は

「宮津の食の魅力を発信する食育の

」まちです！



【発表内容】

③「天橋立と同じくらい有名な観光名所がある」まち

- ・他の観光名所があれば、もっと観光客が来るのではという考えのもと、ツアーを造成した。
- ・お金は、バスの台数増加と道の駅のお土産を増やすことに使う。

コンセプト

私たちが作る未来の宮津は

「^金天橋立と同じくらい有名な観光名所がある

」まちです！

白砂青松^{バス}ツアー！

スタート

金引の滝

成相寺

セーランド

道の駅で食事・土産
(カレーそば?)

白砂青松
(写真撮影)

ゴール

＜お金の使い道＞

- ・バスの車両数を増やす
- ・道の駅の土産のレポーターを増やす
- ・

【発表内容】

④「高校生が大人と子どもをつなげてアイデアを一緒に形にできる」まち

- ・関係人口、移住者、Uターンの増加に向けて、提案する。
- ・宮津天橋高校のSafariに注目し、市全体に広げて考えた。
- ・資金面での支援も含めて、挑戦を後押しできる体制の整備
- ・地域の祭り等を、高校生と大人が協力してやっていく。
- ・高校生の企画したイベントや開発した商品を行政と協力して継続していく。
- ・子どもから大人まで楽しめる場所を作る。
- ・高校生の後押しクラブとして、高校生のアクションを皆で後押しする。
- ・高校生になると職業体験が減るので、企業の中に入って一緒に取組を進めるインターンを増やす。
- ・起業の後押しとして、自分のやりたいことを起業するのを、資金面を含めて後押しする。
- ・Safariが広まっていくことで、目的の達成につながる。

コンセプト

私たちが作る未来の宮津は

「**高校生が大人と子どもをつなげてアイデアと一緒に形にできる**」まちです！

